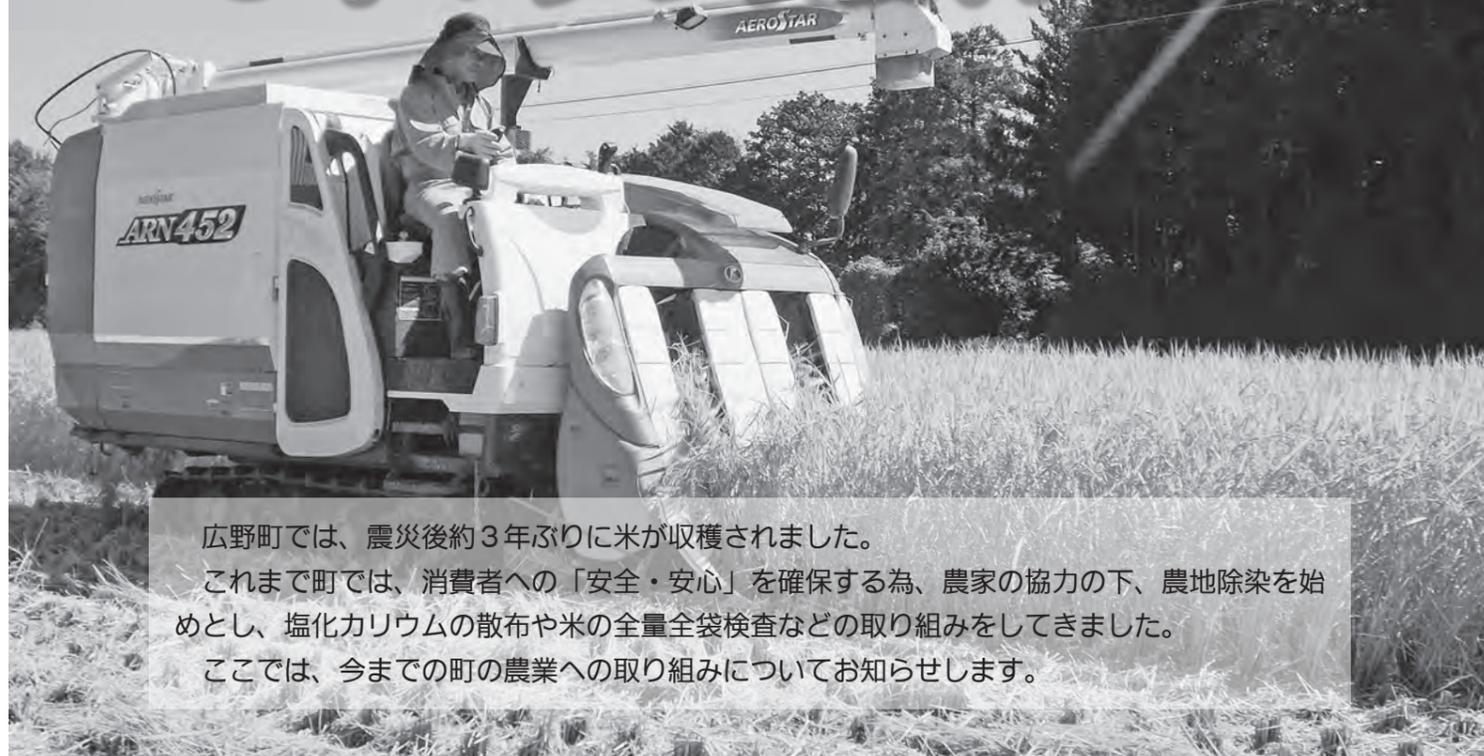


# 3年ぶりの収穫、出荷へ



広野町では、震災後約3年ぶりに米が収穫されました。これまで町では、消費者への「安全・安心」を確保する為、農家の協力の下、農地除染を始めとし、塩化カリウムの散布や米の全量全袋検査などの取り組みをしてきました。ここでは、今までの町の農業への取り組みについてお知らせします。

## 安全・安心への対策について

平成25年度水稲作付をされた農家の協力の下、消費者への「安全・安心」を確保するため、「水田ごとに水稲管理日誌作成」「吸抑制対策として塩化カリウムの散布」「収穫された米の全量全袋検査」を行っています。

### ■塩化カリウムの散布

農産物への放射性物質移行を抑制するために、平成25年度作付けした水田すべてに、塩化カリウムの散布（10アールあたり、20キロ）を行いました。



▲塩化カリウムの散布に取り組む農家

### ■安全な米づくりのための「水稲管理日誌」

収穫された米袋から基準値（※100ペクレル/キログラム）を超過するものがないよう適正な管理、対策を実施するため、営農を再開された農家の方々には、水田ごとに「水稲管理日誌」の作成を行っています。



▲水稲作付・管理・出荷に係る説明会

### ■全量・全袋検査

広野町は、東日本大震災に伴う原子力災害以来、出荷制限や風評被害などの深刻な被害を受けております。

そのため、福島県が実施している緊急時環境放射線モニタリング調査の実施に加え、広野の恵み安全対策協議会が主体となった米の全量・全袋検査など放射性物質の綿密な検査を実施し、その検査結果を提供することで、消費者や流通業者の信頼、そして農産物の安全を確保するために取り組んでおります。

また、全量全袋検査に係る詳しい情報は、左記の「ふくしまの恵み安全対策協議会」ホームページに掲載しています。

URL <https://fukumegu.org/ok/contents/>



▲検査を終えた平成25年産米

## 農地除染について

平成25年度については、110ヘクタールの水田において、101戸の農家が水稲作付を再開しています。

平成25年広野町産米の収穫見込量は18000袋（540トン）です。

### 【平成25年度収穫見込み数量】

出荷区分	数量
※ 備蓄米	8,000袋（※240トン）
J A ふくしま	2,000袋（※60トン）
保有米	8,000袋（※240トン）

※備蓄米とは…政府による買取が行われるもの

## 全国からの声

広野町において原子力災害により中断されていた水稲作付が、3年ぶりに再開され、平成25年9月25日からは広野町産米の全量全袋検査が開始、その様子が各メディアでとりあげられ、「広野町産のお米の出荷が始まったことをニュースで知りました。広野町を応援したいので、お米を購入したいです。」など全国の方々より温かいお声が寄せられています。

今後とも消費者の方々への「安全・安心」を確保するため、農家の方々を取り合いながら基幹産業である農業の復興を進めていきます。

また、平成25年11月10日（日）に広野町中央体育館で復興祭が開催されます。

復興祭では、検査を終え、安全が確認されたお米や野菜が多数出店されますので多くの方々のご来場をお待ちしております。

## 農家の声



広野町認定農業者  
横田 和希さん

「やっぱり俺には農業しかないな」そう話すのは昨年の12月で仕事を辞めて専業農家になった横田さん。

今年は、コシヒカリより収穫が見込める福島県のオリジナル品種である天のつぶを栽培。

また、横田さんは、「消費者の方とうまいお米を食べてもらいたい」との思いから悪い米をカメラで識別する「色彩選別機」を購入した。

現在、約9ヘクタールの田んぼを耕作している横田さんは、「やっぱり収穫の時期がくるとうれしいね。全袋検査をやっているわけだから安心して食べてもらいたい。」と笑顔で話してくれた。

今後の目標については、「来年は少なくとも15ヘクタールの田んぼをやりたいな。広野にすごい人がいるって思われるように頑張りたい。そしていずれは、農業法人をつくりたいな」と想いを話してくれた。